

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）  
分担研究報告書

ベーチェット病の皮膚粘膜症状と活動性の評価

埼玉医科大学皮膚科 中村晃一郎  
東北医科薬科大学皮膚科 川上民裕

研究要旨

ベーチェット病の皮膚粘膜症状である口腔アフタ性潰瘍、外陰部潰瘍、結節性紅斑、毛嚢炎様皮疹は高頻度で生じ、全身の症状に先行して発症することが多い。再発を繰り返し寛解に至らないことも多い。またしばしば病変内に血管の病変を認める。提唱した皮膚粘膜症状の診療ガイドラインについて文献的に評価し、皮膚粘膜病変の重症度評価について提案した。

A. 研究目的

ベーチェット病の粘膜病変は口腔アフタ性潰瘍、外陰部潰瘍であり、大部分で初発症状として生じる。また、結節性紅斑、毛嚢炎様皮疹、血栓性静脈炎である皮膚症状も高頻度で生じ、経過中再発を繰り返す。皮膚粘膜症状の治療をこれまでガイドラインで提唱してきた。（ベーチェット病診療ガイドライン 2020、ベーチェット病皮膚粘膜病変診療ガイドライン）。また、重症度に関して活動性評価のある文献を検討し、指標を作成したい。

B. 研究方法

ベーチェット病の診療ガイドラインにされている皮膚粘膜病変の治療アルゴリズムについて検討し、重症度に関する活動性評価の作成を検討する。

（倫理面への配慮）

本研究はヘルシンキ宣言(2013年総会で改訂)の精神にもとづいて実施する。

C. 研究結果

ベーチェット病の病態では好中球の活性

化がある。皮膚病変である結節性紅斑、毛嚢炎様皮疹でも、組織学的に真皮の血管周囲性の好中球の浸潤があり、しばしば血管周囲性に認められる。また、動脈の炎症所見や、静脈血管の血栓を認める。治療における重症度評価、活動性評価について検討した。

- ① 口腔アフタ：過去1か月の回数(0-5, 5以上は 5)+大きさ(0-10mm, 10以上は 10)÷2、合計 0-10
- ② 外陰部潰瘍：過去1か月の回数 (0-5, 5以上は 5)+大きさ(0-20mm, 20以上は 20)÷4、合計 0-10
- ③ 毛嚢炎様皮疹/ざ瘡様皮疹：過去1か月の回数 (0-10, 10以上は 10) (合計 0-10)
- ④ 結節性紅斑様皮疹あるいは血栓性静脈炎 過去1か月の回数 (0-5, 5以上は 5)+大きさ(0-40mm, 40以上は 40)÷8、合計 0-10
- ⑤ 疼痛 NRS(0-10) 軽度 1-3、中等度 4-7、重度 8-10、合計 0-10
- ⑥ 総スコア値 最高値 50

口腔内アフタ+外陰部潰瘍+毛嚢炎様皮疹/ざ瘡様皮疹+結節性紅斑様皮疹ある

いは表在性血栓性静脈炎+NRS

ほぼ寛解 0-1、軽症 2-10、中等症 11-24、  
重症 25-39、最重症 40-50

として作成した。

## D 考察

ベーチェット病の結節紅斑様皮疹、毛嚢炎様皮疹は、組織学的に好中球浸潤が顕著で、同時に血栓形成を認める。皮膚粘膜病変に関する治療アルゴリズムでは、ステロイド、コルヒチン全身療法が推奨される。皮膚粘膜症状は初発で生じ、また再発を繰り返すため、皮膚粘膜症状の重症度、治療、経過中の推移を評価することが必要である。

今回、これまでの既存治療について文献的に検討し、皮膚粘膜病変の評価方法について提案した。評価では、結節性紅斑様皮疹、毛嚢炎様皮疹について回数、大きさを評価した。また、粘膜病変はアフタ性口内炎、外陰部潰瘍があり、ともに過去1か月以内の回数、大きさを評価項目とした。さらに粘膜病変は疼痛を伴うことが多いため、疼痛も評価項目に加えた。これらを合わせた項目を総合スコアとして計測することとした。

## E. 結論

口腔アフタ性潰瘍、結節性紅斑様皮疹、毛嚢炎様皮疹を総合的に評価する評価指標を提案した。初発症状や治療経過中の重症度活動性の評価項目としての活用にむけて今後検討が必要である。

## F. 研究発表

### 1) 国内

口頭発表 2件  
原著論文による発表 3件  
それ以外（レビュー等）の発表 0件

1. 論文発表  
原著論文

1.

著書・総説

1. 中村晃一郎 急性外陰潰瘍・ベーチェット病の外陰病変。産科と婦人科 89: 54-58, 2022
2. 中村晃一郎 ベーチェット病の皮膚症状と精神症状。精神科 38: 174-178, 2021
3. 中村晃一郎。今日の皮膚疾患治療指針。Behcet 病。pp396-399、医学書院。第5版。編集:佐藤伸一, 他。2022年3月。

### 2. 学会発表

1. 川上民裕。ベーチェット病診療 Up to Date-標準化医療を目指して-第54回日本眼炎症学会 2021年7月24日
2. 川上民裕、横山華英、池田高治、高橋一夫、西端友香、益田紗季子、外丸詩野、石津明洋 東北医科薬科大学におけるベーチェット病診療の実態と皮膚生検標本を使用したNETs免疫染色の検証 第4回日本ベーチェット病学会 2021年11月27日

### 2) 海外

口頭発表 0件  
原著論文による発表 0件  
それ以外（レビュー等）の発表 0件

### 1.論文発表

原著論文

1. なし

著書・総説

1. なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願、登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし